

1 出数と割合

	世帯数	提出数	提出の割合	自由記述
全校	54	54	100%	6人

※今回は、各学級にて、担任が提出の確認をしながら(中身は確認しない)回収を進めたため、100%の提出となりました。

2 アンケートの集計（別紙）

3 自由記述（5通）

以下原文のまま

■校長先生も学校新聞の中でおっしゃっていましたが、あいさつのできない、しない雰囲気なのを非常に危惧しております。あいさつは、本来家庭で教育するものだと思いますが、このところ負の連鎖(上の子がしない→下級生もしない)が続いているのが心配です。何年も子どもを嵩山小に通わせているので実感しますが、以前(2～3年前まで)は、朝もボランティアの方々よりも子どもたちの声の方が響いていました。しかしここ数年、遊んでいる子を見かけてあいさつしたり、朝の登校時にあいさつしてもだれもしない、しても1、2人だけということもあります。集団生活である以上、学校全体としてあいさつへの積極的な取り組みを望んでおります。

例えば①あいさつ運動(地域、家庭も巻き込み行う。スマチャレのようなものではなく、あいさつピンポイントで！)

②校内ですれちがったら先生方から何度もあいさつして、校内からあいさつする雰囲気をつくる。

③あいさつがしっかりできる子を大げさなぐらいほめる。

もちろん、我が子にもきちんと指導しますが、学校全体として、ぜひ動いてほしいです。せっかくの校長先生の学校新聞のお言葉がムダになりそうでもったいないです。

■早く下校した時だと思われませんが、先生が付き添いをしていただいて、それはありがたかったです。けれど、子どもの後ろをついている男の二人の先生が話をされていて、子どもたちは主人に挨拶したそうですが、その先生方はされなかったそうです。挨拶は基本なので、子どもたちの見本となる先生になってほしいと思います。

■①マスクの着用について

7月12日付のお便りにて、マスクの着用は徹底するとの事ですが、…マスクによる弊害が叫ばれている中、熱中症対策だけでなく、もう少し柔軟なご指導をお願いしたいです。

先生によっても対応が違っていたり、マスクを外しているとお友達から指摘されることもあるようです。マスクの全面自由(つけるも外すも)ということは難しいでしょうか…。高学年であれば、話し合っただけでクラスでのルールを取り決める等、少人数校だからこそ出来ることがあるのでは。“言われるからする”のでは考えない人間になってしまいます。何のために必要なのか？改めて考える時だと思えます。

②性教育について

第二性徴や生殖のしくみについては、4年生から授業があったようですが、低学年からもぜひお願いしたいです。内容としては、健康・安全(性犯罪の抑制)自分を大切に、相手を尊重する。学校のお友達と共に聞くことに意味があります。

→母の目線で性教育をしてくれる助産婦の友人がおります。ぜひご検討して頂けたらと思います。

③学校公演をぜひやって頂きたいです。

コロナ禍で制約のある生活を送っている子どもたちに、心の栄養、脳への刺激を与え、思考力やファンタジーの力を育むのが、本物の舞台鑑賞だと思います。市内の公演会場でも人数制限をして公演を行っています。少人数の嵩山だからこそ実現できると思います。以前あった保育園と1年生の観賞会もなくなってしまい、とても残念です。劇、伝統芸能、音楽等、体育館でみんなと合同で体感する喜びは学校だからこそだと思います。

■マスクはもう外してよいのではないのでしょうか。熱中症もかなり心配です。体育時には外しているときいていますが、運動を終わってすぐつけるのは、まだかなり苦しいはず。別の市に住む友人の子が運動後すぐの装着で熱中症の症状が出たようで、かなりあぶないと言っていました。夏休み後の運動会の練習も暑い中での練習になるでしょうし、配慮がもっと必要なのではと思います。

■362号線を渡る子がいる。指導を徹底してほしい。

男子と女子でひいきがあるらしい。子どもが感じるひいきはダメだと思う。

4 分析

※学校経営基本方針に基づき、文面を多少変えたものもあります。基本内容は同じなので、昨年度の同時期のデータと比較を行いました。但し、設問⑱は、部活動終了を受け「健康的な体づくり」の項目へと一新していますので、これには経年比較情報がありません。

I 成果が表れた項目

◇2「地域の教育素材をもとにした実体験を大切に、感性や人間性を育み、体験を言葉にすることで言語活用能力を養っている。」

昨年度、多くの体験活動を実施できませんでした。本年度は、7月までは比較的順調に普段の活動を実施することができました。9月現在、感染は再び急拡大をしているため、2学期にも同じように実体験を大切にしたい学習ができるかどうかは、状況しだいですが、できる活動を着実に実施することを目指していきたいと思っております。

米作り、イモ栽培等、農業ボランティアの皆様のおかげで、順調に土と関わる体験活動は実施できています。ふれあい交流会は実施できませんでしたが、筆づくりだけ別日に実施したり、防災体験を行ったりと、「方法を考えれば、できる活動は実施する」という姿勢を評価していただいたことと思っております。

◇5「だるま班（縦割り班活動）の活動を通して、集団の中で自分の個性を活かし、役割を果たすことができる人間関係の育成を行っている。」

昨年度は、コロナ禍ではありましたが、長縄を短縄にし、休業明け直後に実施したことは、とても高い評価をいただきました。だるま班は、本校の子どもたちの人間性を育む上で欠かせない

ものの一つです。遠足は未だに実施できていませんが、清掃活動や530運動など、日々の体験の中のだるま班でのつながりは、着実に「役割を果たす人間関係」を形成しつつあることと思います。

◇6「体育的な行事（運動会・マラソン大会等）や青空タイムの設定などで外遊びの奨励を通して、子どもたちの健康な体づくりに力を注いでいる。」

一昨年度より設定している「青空タイム」が児童の間でも定着し、「長放課は、外で体を動かす」ということが習慣化しました。比較的密な空間となる教室よりもマスクを外して体を動かすことができる外の方が心地よいということもあったかも知れません。

ただし、本年度より部活動が廃止となったことにより、「健康な体づくり」という点で、部活動が果たしていたことを補完できていたかと言えば、まだ「？」マークがつくことでしょう。

新しい体育館、広い運動場等、恵まれた環境をもっと生かせるよう工夫をしていきたいと思えます。

◇10「地域の伝統や自然環境を活かした教育活動を推し進め、嵩山の「人」、「もの」、「こと」を教材とした学びを大切に、地域とともに生きる豊かな心の育成を図っている。」

地域との関わりが大前提の「嵩山学」ですので、本校の体験的な教育活動にとって、地域の人々との交流は生命線とも呼ぶべき重要な活動です。

コロナ禍が続く中、各種行事で来賓招聘を中止し、昨年度末では「ありがとうの会」の開催も断念せざるを得ませんでした。リスクの低い530運動の実施や、ご来校いただけない分は、子どもたちがお手紙を書くなど、できる範囲の交流を懸命に続けてきました。こうした試みを評価していただいたものと思います。

実際にふれあう中で、地域の皆様との交流を深めていくことが、子どもたちにとっては最も価値があるということ間違いありません。再び自由に交流できる日が来るまで、関係を切らないようにさまざまな方法を試みていきたいと思えます。

Ⅱ 課題が表れた項目

◆1「子どもたちの学びたいという思いを大切に、友達と考えを伝えあうことで共感できる場面を作り、考えを深めようと努めている。」

「クラス替えがないので、発言する子が固定化されてしまう」という傾向は、小規模校の少人数授業の課題とされてきました。コロナ禍で、ソーシャルディスタンス確保のためのグループ活動の制限や同じ方向を向いての授業の中では、「伝えあうことで共感できる場面」を設けることは難しい状況です。ただし、そうした中で「主体的、対話的で深い学び」を実現しなければなりません。

大切なのは、伝えることより、相手がどのような考えをもっているのかに関心をもち、相手の気持ちや考えを主体的に「聞く」ということかも知れません。マスク超しに話す声は小さくても、その子が何を話そうとしているのかを把握する主体的な態度があれば、お互いに共感する部分を探ることができるのではないかと思います。逆に、そうした態度があれば、こちらからも「どうしたら伝えられるか」を考えられるようになるのではないのでしょうか。

「伝える」だけでなく、「伝え合う」ためには、今は「聞く」力を伸ばすことに力を注ぐべきではなかったかと反省しています。

◆17「お子さんは、学校のことをよく話してくれると思いますか。」

20「先生は、保護者と話す機会をできるだけ多く設けようとしていますか。」

前項同様に、「コミュニケーション」に関する項目は、コロナ禍の中ではどれも厳しい状況であるということが如実に表れています。

6月に予定されていたふれあい交流会の中止をはじめ、さまざまなイベントが中止、縮小されている現在では、職員と保護者が話し合う機会が制限されてしまいます。子どもたちも、楽しみにしていた遠足が延期となったり、野外活動が日帰りになったりする状況の中で、家で何かを「伝えたい」と思う気持ちが薄れているのかも知れません。

イベントがなくても、日々の学習や生活の中で「話したい」と思うことを見つけるスキルを上げる指導が必要だと思えます。

また、保護者と職員が「話す機会」は、まだしばらくの間は制限されることとなります。少ない機会の中、お互いに理解を深めるためにできることを考えていかなければなりません。設問20にもありますが、学級からの広報を充実させるなど、「今、学級ではどんな取り組みをしているのか」を伝える努力をしていきます。ただし、本年度は、職員数減のため、例年なみにHPの広報や、写真閲覧の事業を展開するのは難しい状況にあることはご理解いただけると幸いです。

そうした意味で、ご家庭の方でも、学級からの情報の受け入れに前向きに取り組んでいただけると幸いです。

◆15「お子さんは、家庭学習の習慣が身についていますか。」

常に、家庭での評価が厳しい項目です。「(1)そう思う」の割合が、22.2%というのは、全設問中最低の数字です。

昨年度後期のこの紙面にて「学びに向かう力」の不足について語りました。ドリル的な家庭学習に興味をもてず、十分な取り組みができていないという現状を、「主体的な取り組み」へと変革させるために必要なことは何かを社会全体が考えていく必要があります。

一つの方法として、取り組みを始めたのがGIGAタブレットによる学習です。確実に今の子どもたちは、ICT機器なしに生活していくのは困難である時代を過ごしていきます。だからこそ、自らが主体的に教材に向かっているといかなければなりません。学校では、タブレットという道具をどのように活用していけば、そうした主体性が身についていくかを研究していきます。

宿題が与えられるのを待つだけで自分の学びを止めてしまわないよう、自ら課題を見つけ、成長していける子の育成をみざしていきましょう。

◆9「ホームページでの学習活動の紹介や校長室だより「嵩山塾だより」、インターネット写真閲覧、学級通信等の情報発信に努め、家庭や地域に子どもたちの学びの姿を伝えようと努めている。」

◆21「先生は、学級の様子（取り組みや子どもの生活）を知らせようとしていると思いますか。」

これら二つの設問に対する回答を見る限りでは、学校からの情報発信が十分ではないということがわかりました。昨年度から本年度にかけて、コロナ禍でイベントが極端に減っているのは事実です。以前は、イベントの様子を伝えることで、子どもたちの学校での様子を伝えられました。コロナ禍の今日では、何気ない日常から子どもたちの様子を伝える努力が必要だと思えました。できることに限りはありますが、より効率的に広報活動ができるよう工夫していきます。

Ⅲその他の項目について

▼12「お子さんは、家族や地域の方に挨拶をしていますか。」

自由記述には、「あいさつの現状に対する課題」を語る意見が2通ありました。しかしながら、設問12の結果を見る限りでは、むしろ昨年度よりわずかですが、「(1)そう思う」と回答している

方が増加しており、「(2)どちらかというと思う」というプラス志向の意見を含めると、実に85.2%の方が、子どもたちのあいさつへの取り組みを評価しています。非常に温度差を感じる結果となりました。

現状、多くの場合、子どもたちはマスク越しのあいさつとなります。声の小さな子は、「言っているのかどうか分からない」というところでしょう。ただし、毎日17時の防災無線から流れる注意喚起の言葉に「大声での会話の自粛」があるように、今は、「大きな声であいさつしなさい」と言えない現状があります。このことをどう捉えるかで、この項目の評価は二分されるということでしょう。

マスク越しに自分の気持ちを表現するのはとても難しいことです。顔の半分を覆われた状態で、自分の気持ちを表現するためには、覆われていない部分で豊かに表情を出す必要があります。簡単に言うと、「目であいさつする」ということでしょうか。小学生には難しいことですが、マスクが必要なくなるであろう近い将来にとっても、必ず役立つスキルだと思います。当面の間、「目で相手への敬意を表す」ということに対して、子どもたちのできる範囲で取り組ませていけたらと思っています。

- コロナ禍であっても、方法を考え、できる活動を実施する
- 恵まれた運動環境の有効的な活用
- タブレットの活用を通じた主体的な学びへの指導
- 目や態度で相手に敬意を表す表現力の育成を旨とする